

## 神奈川県プラスチック資源循環推進等計画案について

神奈川県プラスチック資源循環推進等計画（以下「計画」という。）について、第74回神奈川県環境審議会や県議会等での意見をもとに素案を修正し、10月に実施した県民意見募集等を経て、このたび、計画案を取りまとめた。

### 1 前回の環境審議会での委員意見

- ・ プラスチック問題をクジラの赤ちゃんで象徴するのは良い面もあるが、クジラの赤ちゃんのためと誘導されている感じがある。海洋問題としてのシンボルではあるが、大きい問題はそれだけではないことを県民に啓発していくことも大切である。
- ・ 不織布マスクがプラスチックであることを知らない県民も多いと思うが、紙なのかプラスチックなのか分からないようなものも、実はプラスチックだといった情報を、県民に周知してほしい。特に衛生製品にはプラスチックの使用が多く、例えば、マスクが風に飛ばされてしまっても拾ってゴミ箱に入れるなど、コロナ禍と相まって県民にうまく普及啓発してほしい。
- ・ 県としてどの方策に重点を置いているのか明確化した方がよい。発生抑制が一番重要であると考えるが、発生抑制やリサイクルの推進は産業系が進めやすいのではないか。
- ・ リサイクルよりもリデュースが重要であり、ワンウェイプラの削減にはもう少し重点をおくべきではないか。
- ・ 上流側となる事業者の支援として、環境に良いことをした事業者に対して経済的インセンティブを与えられる施策を検討してほしい。例えば環境以外の分野における補助制度において、プラ対策に取り組む事業者の補助率を加算するなど、中長期的に検討してほしい。
- ・ 普及啓発は単に現状や法律の内容を伝えるのではなく、分別を徹底することでリサイクルのルートや効率が変わることも訴えていく必要がある。小学生向けの映像教材を活用した環境教育については、販売店や製造事業者とも連携して進めた方が良い教材ができるのではないか。
- ・ 山、川、海は一体であることから、クリーン活動は、市町村、団体等とも連携して全県的な取組みを進めていく必要がある。例えば、全県で一斉にクリーン活動を実施するクリーン作戦デーを設けること等を検討してほしい。
- ・ リサイクルについては、サーマルよりもマテリアルやケミカルを優先して進めていくものとするが、サーマルの割合を何パーセントとするなど数値目標を作ってもよいのではないか。
- ・ 進行管理の指標は素案に示された4項目では不十分ではないか。国の戦略において示されたマイルストーンについて、県としての数値目標を立てることはできないのか。例えばワンウェイプラの削減をどのくらいの目標でやっていくなど、

もっと目標項目を増やす検討をしてほしい。市町村の焼却炉であればサーマルの割合など調査し把握可能であることから、数値目標を掲げるべきと考える。

## 2 県議会からの意見

- ・ 計画が実効性のあるものとなるよう、縦割りではなく、横のつながりを強化し、県全体として実効性のある計画策定を進めていただきたい
- ・ 熱回収を促進するという観点が追加されたことは、温室効果ガスの削減に積極性を欠くとの誤った印象を県民に与えかねない。  
把握が十分なされていない産業廃棄物部門の熱回収の現状の調査を進めるとともに、計画素案に示された年度ごとの有効利用率の数値目標と並んで、熱回収割合の削減の数値目標を設定し、具体的に取り組んでいくことを求める。
- ・ 実効性のある計画とするため、県内におけるプラスチック製造量や、3R + Renewable の現状、マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル及びサーマルリサイクルの割合、各市町村のごみ処理場の現状等を示したうえで、部門別の削減目標を設定し、その状況把握に努めるよう要望する。
- ・ 素案中マイクロプラスチックの発生元等に係る実態調査の記載について、理解促進のためにも、文章表現のみにとどめず、エビデンスデータを記載するなど工夫していただきたい。
- ・ 仮想空間を活用して、プラごみ問題について普及啓発を行うような取組みも期待されることから、若い世代の意見も聞きながら検討してほしい。
- ・ 県独自に、拡大生産者責任として、不必要なプラスチック製品を生産しない等の規制ルールを設けるよう要望する。
- ・ 市民の行動変容をどのように誘導するかが重要であり、まずは発生抑制をメインに置き、複雑な分別やリサイクルありきではない、市民の行動変容に繋がる計画策定を要望する。

## 3 素案に対する県民意見募集等の結果

### (1) 県民意見募集

#### ア 意見募集期間

令和4年10月11日～11月9日

#### イ 意見募集の周知

- ・ 県の窓口における配架  
県政情報センター、各地域県政情報コーナー、資源循環推進課
- ・ 県のホームページによる情報提供
- ・ SNSでの情報発信  
県庁広報 Twitter、環境農政局 Twitter、  
LINE 公式アカウント「プラごみゼロ情報」
- ・ 市町村への周知依頼

- ・ プラごみゼロ宣言賛同企業等、神奈川県ワンウェイプラ削減実行委員会構成員等（約 2200 者）への周知
- ・ 関係団体（かながわペットボトルモデル事業コンソーシアム構成員、神奈川県商工会議所連合会等 9 団体）への周知依頼
- ・ 事業者向け講習会での周知

(2) 市町村への意見照会

令和 4 年 9 月 28 日～10 月 21 日

(3) 実施結果

ア 寄せられた意見の件数 19 件（意見提出者数 県民 17 件、市町村 2 件）

イ 意見の内訳

区 分	県民等	市町村	合計
(ア) 計画全般に関するもの	2 件	0 件	2 件
(イ) 「Ⅱ プラスチックごみを取り巻く社会的状況の変化」に関するもの	0 件	1 件	1 件
(ウ) 「Ⅲ 本県におけるプラスチックごみの現状等」に関するもの	2 件	0 件	2 件
(エ) 「Ⅵ 推進方策」に関するもの	7 件	0 件	7 件
(オ) 「Ⅶ 各主体の役割」に関するもの	0 件	1 件	1 件
(カ) 「Ⅷ 計画の進行管理」に関するもの	4 件	0 件	4 件
(キ) その他	2 件	0 件	2 件
合 計	17 件	2 件	19 件

ウ 意見の反映状況

区 分	県民等	市町村	合計
(ア) 計画に反映した意見	7 件	1 件	8 件
(イ) 既に計画に反映されている意見	1 件	0 件	1 件
(ウ) 今後の取組の参考とする意見	6 件	0 件	6 件
(エ) 計画に反映できない意見	1 件	1 件	2 件
(オ) その他	2 件	0 件	2 件
合 計	17 件	2 件	19 件

エ 寄せられた主な意見

(ア) 計画に反映した意見

- ・ 国際的には、熱回収はリサイクルとして認められていないと認識している。県民は、分別回収することで「リサイクル」されていると誤認している人も多いと思う。誤解を招かないように、「サーマルリサイクル」の用語は使用せず、「熱回収」の用語を使用してほしい。
- ・ 国際的には熱回収はリサイクルとは認められていないことから、計画の

進行管理における目標値の設定にあたっては、有効利用率の中に占める「熱回収」の割合が分かるようにして管理・検証してほしい。

- ・ 2020年度有効利用率の実績はすでに高い数値にあり、どのように有効利用していくか、有効利用の質にこだわっていく段階に来ていると感じている。国内で回収されたプラスチック類は、61%がサーマルリサイクル(熱回収)であり、マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクルへとまだまだ向上が求められる段階である。

指標として有効利用率ではなく、リサイクル手法ごとの比率など、質の向上を意識できる指標づくりと、質を向上させる施策の推進をお願いする。

- ・ 「回収したプラスチックごみのうち、約7~9割を製品プラスチックが占めていました」とあるが、実際に海岸でゴミを拾うと、ペットボトルやトレイ、お菓子の袋などの容器包装プラスチックが多いと感じる。製品プラスチックは、トレイやペットボトルよりも重いものが多いので、重量単位では、「9割が製品プラスチック」となることもあるかもしれないが、海岸におけるプラスチックごみの状況を伝える表現として、適切かどうか疑問を感じる。
- ・ 「バイオマスプラスチック」には期待される面がある一方で、バイオマスプラスチックの原料確保には困難があることや、生分解性プラスチックが分解するためには一定の条件が必要であり、その条件が満たされなければいつまでも分解しない等の課題があると認識している。課題についての記述を補強し、誤解を招かない正確な記載としてほしい。

(イ) 既に計画に反映されている意見

- ・ 最近パンや惣菜をテイクアウトする際、持ち込み容器を持参する人もいる。お店が掲示する「容器持ち込みに対応可能ステッカー」を行政側が作って啓発してくれるとプラ容器削減にも繋がるのではないかと。

(ウ) 今後の取組の参考とする意見

- ・ 計画策定の趣旨からは資源循環の重要性の認識と、これまでの取り組みからさらに条例を改正して計画を加速させたい思いが伝わる。県民がプラスチックごみ問題に理解と関心を持ち、リサイクルされずに廃棄されるプラごみ0を早期達成するため、実態調査等の情報公開が欠かせないと考える。県民一人ひとりに伝わりやすい形での情報公開をお願いする。
- ・ クリーニング店のプラスチックハンガーなど、回収品目を特定する事でマテリアルリサイクルにつなげている団体がある。広報は各団体でも積極的に進めていくべき事ではあるが、品目を特定した事業者の自主回収に出すことがマテリアルリサイクルにつながり、リサイクルの質を向上できることをぜひ伝えてほしい。
- ・ 推進方策の1番目に、プラスチック使用製品の「使用の合理化の促進」があるが、「使用の合理化」という用語が分かりにくく、またメッセージとし

でも伝わりにくいことから、「リデュース」の用語を使用してほしい。「使用の合理化」という用語は、法律が使用していることは理解するが、「使わない」「減らす」というメッセージを正確に伝えるために、計画上の留意点として、また啓発用の資料等では「リデュース」の用語を使ってほしい。

(エ) 計画に反映できない意見

- ・ 「プラスチック使用製品の使用の合理化の促進」は、3つの重点的に講ずべき方策の一つであるにもかかわらず、目標数値が設定されていない。施策の妥当性を評価するためにも何らかの数値目標を設定し検証を進めることが必要だと考える。

(オ) その他

- ・ 有料化される前はレジ袋をごみ袋として利用していた。一律にプラスチックを使用しないようにすることは反対である。

#### 4 改定素案からの主な変更箇所（ページは計画案のページ番号）

(1) 施策の基本的な方針

- 取組みの優先順位及び熱回収に係る考え方を追記した。また、Renewable な取組み例を紹介するコラムを追加した。（P20）

(2) 熱回収に関するもの

- サーマルリサイクルの用語をサーマルリカバリー（熱回収）に修正した。（P8ほか）
- 熱回収に係る中長期的な方針を追記するなど記載を修正した。（P23、24）
- プラスチックごみの有効利用量等を示した表（表2及び表4）中の有効利用率については、熱回収による有効利用率も併記するよう修正した。また、計画の進行管理において、熱回収による有効利用率の把握に努め、公表していくよう修正した。（P10、12、27）

(3) その他

- プラごみゼロ宣言に係る説明を追記した。（P3）
- IV「5 実態調査結果」について、エビデンスとなる論文を掲載する等記載を修正したほか、側溝を通じたプラごみ流出に関するコラムを追加した。また、海岸ごみに関するコラムについて、調査に関する記載を追記した。（P4、18、19）
- 海岸ごみに関する調査結果（表5及び表6）について、人工ごみに対する割合であることが分かるよう記載を修正するとともに、海岸には具体的にどのようなプラごみが捨てられているか分かるよう記載を修正した。（P13、14）
- 推進方策1について、「使用の合理化」の内容が分かりやすく伝わるよう記載を修正した。（P21、22）
- コラムを2点（①不織布マスク等の身の回りに存在するプラスチックに関するもの、②ワンウェイプラスチックの削減に関するもの）を追加したほか、バ

イオプラスチックも係るコラムに課題等を追記した。(P 6、7、15)

## 5 今後のスケジュール(予定)

令和5年2月 県議会へ計画案を報告

3月 計画策定